

## 熊本大学の女性研究者支援モデル育成事業の推進



### 男女共同参画推進室長

森 光昭(人事・労務担当理事)

熊本大学は、平成18年度の科学技術振興調整費の「女性研究者支援モデル育成事業」に採択されました。本学が提案し、採択された「地域連携によるキャリアパス環境整備」事業は、ポイントが2つあります。

一つは、本学が熊本県とともに実施してきた男女共同参画事業推進実績を活かした地域連携により、女性研究者のキャリアパスを整備すること、二つめは大学や産業界でチャレンジする女性研究者を支援し、女性人材の能力活用を図ることです。

この事業の熊本大学の特徴は「地域連携によるキャリアパス環境整備」であり、大きな柱が、学内全体に男女共同参画の意識を定着させることを目的としています。

本学における女性研究者の現状について言えば、研究者のうち女性の占める割合は、大学院学生に比べ教員では大幅に少ない状況です。たとえばライフサイエンス分野では、修士課程の女性比率は49%と偏りはありませんが、博士課程では22%、教員の割合は15%と、大きく減少をしています。

この原因の一つは、学生から、ポスドクなどを経て、研究職に就くまでに、女性のライフステージも大きく変化する時期であり、結婚、出産、育児、家事、介護など種々の課題と研究活動を両立させていくことが、女性に多く求められがちな状況、また研究者という職業が女性に対して十分に開かれていないといったことが考えられます。そのために、本学はこの提案課題に次の4つの観点から取組しております。

1つめが意識改革、2つめが制度改革、3つめが保育支援、4つめがチャレンジ支援です。(1)意識改革として、「熊本大学男女共同参画推進基本計画」をH19.3.26に策定し、男女共同参画委員会を中心に啓発活動を行い、全学的な男女共同推進の意識を高めるためにH18年度3回の講演会を開催しH19年3月までに3回の講演会、女性研究者交流会を開催しております。

(2)制度改革として、短時間勤務、ITを使った在宅勤務などの勤務体制に関する環境整備(案)を現在検討中であり、育児・介護の必要性がある研究者等の負担軽減を行います。

(3)保育支援として、保育援助システムを創設し、子育て支援グループ等との連携により、研究者が子育てと研究を両立できるようにします。

(4)チャレンジ支援として、大学のみならず産業界など多様な場で活躍できるよう、人材のデータバンク化(H20・1HP上に開設中)と情報共有を行い多様なキャリアパスの創出に努めてまいります。